

スウェーデン発音楽ケア

「ブンネ」が本に



スウェーデン発祥の音楽ケア「ブンネメソッド」の効果や介護施設での実践事例などを紹介した「スウェーデンのブンネ・メソッド」の出版を記念した講演会が4日、スウェーデン大使館で行われた。

音楽療法士ステン・ブネ氏が約35年前に開発したブンネ・メソッドは、幼児や障害のある人、高齢者でも演奏を楽しめるのが特徴だ。ギター、ミニベース、フルート、チャイムバスの4種類の楽器を使って演奏する。

フルートは単音のみ。ギターは、指でなくバーで音を変えるなどの工夫がある。出る音は色分けされていて、指揮者が出す紙の色に合わせて吹いたり、弾いたりすると音符が読めなくても合奏が楽しめる。

日本では7年ほど前に紹介され、舞浜俱樂部(千葉県浦安市、グスタフ・ストランデル社長)が運営する有料老人ホーム「富士見サングァーロ」でいち早く取り入れた。レッスンは週2回2時間程度実施。毎回、10〜22人が参加していると

いう。ベッドの上で何もせずに過ごす生活を送っていた80代の女性は、職員に誘われて、しぶしぶと最初は見学。ところが、楽器に触ってみた日に、合奏を楽しめたことからやみつきに。半年たって、入居者同士の茶話会に参加し食器洗いも手伝うようになるなど、日常生活が活発になった。

「経験のない人でも音楽を楽しめる。演奏しながら歌うと、自然と笑顔になれる。ブンネメソッドを多くの施設で取り入れてもらいたい」(グスタフ社長)とPRした。

「スウェーデンのブンネメソッド」(ブンネ・ジャパン、舞浜俱樂部編著)は、2千円(税別)。メディア・ケアプラス03・6404・6087。